

2023年1月18日

「第3回部活動サミット」の記事から感じた事

作成：林 但

部活動の在り方について、生徒たちが意見交換する「部活動サミット」が3年ぶりに昨年11月21日、22日静岡県の聖光学院中・高で開かれた記事が朝日新聞で2回（1月11日、18日）にわたって掲載されていました。記事を読んで感じたことを以下に記載致します。スポーツ庁の第3期スポーツ基本計画で地域への移行がR4年から3年間で進めることは示されていますが、現状神奈川県では具体的に提示はなく県は各市町に調査中のように思います。本市スポーツ推進委員でも少数の方は関わっているように思います。

今回のサミットには、全国から5種目9学校の生徒と教員・教員だけの学校が6校参加、**陸上競技のオリンピックの為末大さん**やかつてボトムアップ式で広島観音高校サッカー部を率いて高校総体を制した**畑喜美夫さん**も招かれ、一緒にワークショップをした。

たとえば、「部員間で意見が分かれた時どうするのですか」と登壇していた安田学園高バスケットボール部員に、他校から質問が飛んだ。

「単純に多数決では決めません。みんなが納得するまで話し合います。意見が30人と10人に分かれた時も、10人が正しい時があるからです。」 活発に討議が繰り広げられる。***1**

企画運営は聖光学院中・高の生徒たちが手がけた。同校では部活は週3日、1日90分、冬場は60分と決められている。2018年にラグビー部の生徒から「短時間で練習の質を高める方法を学びたい」と教師に提案したことをきっかけにサミットは始まった。

今回、テーマの軸は、生徒が主体的に動くボトムアップ式の活動へ移った。江戸川高野球部は、選手同士で作戦を決め、サインを出しあうセルフジャッジベースボールを発表した。自分たちで考えプレーを選ぶ、結果的に監督の考えと同じでも、能動的か受動的かで、意味合いは大きく違う。同部では試合に出る選手は生徒間投票で選考する。「重視するのは、社会性、テストの成績（賢さ）、技術面、ベンチでの貢献度。『勝ちより価値』です」

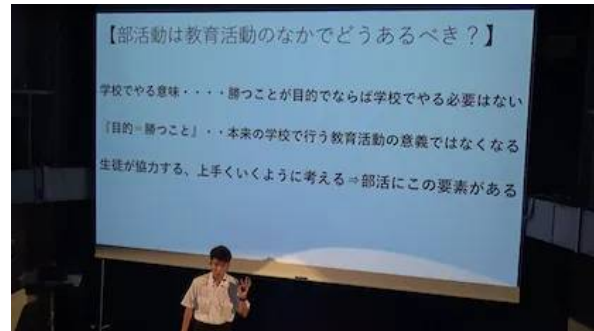
生徒たちは大いに刺激を受けたようで、(1)江戸川高のHさんは「自分たちだけのボトムアップに自信があったが、何でも自分たちでやるのではなく、自分たちで考えられない所は監督にゆだねるなど、いろいろな形があることがわかった」(2)安田学園高のOさんは「主体性は部活だけでなく、どの社会でも必要なこと部活を通していろいろな大事なことを実践している」

今回教員側からかかわった副教頭は、新たな次元に入った。前回までは短時間での練習をどうするかといった悩み相談会から、『部活の意味』という本質に入ってきた。 ⇨ここまで11日記事

*1：記事を読んでいて、私は会社勤務時代にグループ会社の社長や取締役、その候補者の研修担当していたことがある。この時同様な体験をした、事前の課題本やケーススタディのレポートにもとづきグループ分け討議をしていただく。1：5とか2：4に分かれた時、講師からこのケースでは少数意見に考えるのがこのケースの解といわれたことは何度も経験。討議は1～2時間喧々諤々すごかったことを思い出した。



出典：朝日新聞 討議風景



出典：朝日新聞 講義

聖光学院高ラグビー部の M さんは集中治療室に入る重傷を負った。部に貢献できることはないかと夏にニュージーランドの高校へ短期留学した。ラグビーの強豪校だったが、練習は週に2回、90分間ずつのみ。そこから世界トップクラスのニュージーランド代表が輩出されていた。驚いたのは生徒がラグビーだけでなく、ピアノを弾いたり、絵を描いたりと芸術にも触れていた。「日本のこれからを考えた時に、部活は短時間で効率的にやり、スポーツ以外のこともやる必要がある。部活は生徒が主体となっていけないといけない」他校の事例が知りたいと参加された。

部活動の意義はグラウンドの他にも多くあるということ。学校の枠を超えて考えを伝えあい、疑問を投げあう。視野の広がりや触発。生活の中に大きな位置を占める部活動を舞台とするからこそ、自分のこととして受け入れやすい。「部活動サミット」は他の学校でもやってみる価値はあると感じた。自分自身今はかかわりがないが中学校などの部活は時々見学しているし、コロナ禍の前は応援にも出かけていた。今まで以上に新聞記事読んで注目していきたい。 ⇨18日の記事

11月21日は、世界陸上でメダルを2回獲得されている為末大さんの講演や他チームとの話し合いを通して、部活動のあり方・どのように短時間部活で結果を残していくのか。各校の部活動で大切にしていることや主体性をもって行動していることを共有してディスカッションした。

11月22日は、サッカー部を短時間練習・主体性練習で日本一に導いた畑喜美夫さんに助言等受けた。ディスカッションして学んだことをまとめ部活動に対する考えを言語化した。それを 1人1人今後どのように部活に活かしていくか発表した。 これは私が研修でやっていたことと全く同じである。

今回の記事では部活動の視点で考えたが、地域・学区の視点でも行事や活動について同じことが言えるのではないだろうか？ 6つの地域での交流会や行事・ニュースポーツの立ち上げなどは今回の生徒たちのとった行動は参考になるように感じた。できることから、出来ると感じた人から始めたらどうだろうか？

以上